

# 競 技 注 意 事 項

## 1 本大会は、2021 年度日本陸上競技連盟競技規則、及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

児童である年齢を考慮した教育的配慮の元に競技を進行する。そのため、競技者の衣類・バッグ等の商標等の規程、及び2020年度のシューズ規程に関する改定ルール（TR5.2・競技用靴）については適用外とする。

- (1) 1000m、800mを除く種目は、オールウェザー用のスパイクシューズ（ピンの長さ9mm以内）を使用してもよい。
- (2) 全天候舗装走路では火傷の危険があるので、素足での競技は禁止する。
- (3) スタートはクラウチングスタートとする。その際、スターティングブロックを使用してもよい。
- (4) スターターの合図は、イングリッシュコマンド「On your marks : オン・ユア・マークス」（意味：位置について）「Set : セット」（意味：用意）を使う。同じ競技者が2回の不正スタートをした場合、その競技者を失格とする。
- (5) リレー競技におけるテイク・オーバー・ゾーンは、30mとする。テイク・オーバー・ゾーン外から走り出してはならず、ゾーンの中でスタートしなければならない。走者が2つ以上のテープなどのマークをつけることは禁止する。また、リレーチームのメンバーの上着のユニフォームは統一したものでなくてはならない。ただし、男女による型の違いは認めるものとする。  
※ 予選に出場のチームは、受付後すぐに所定の「リレー・オーダー用紙」に記入のうえ、招集完了時刻の1時間前（8時40分）までに、受付会場の担当者に提出すること。一度申告したらその後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない（R24.11）。  
また、決勝に出場する場合には、控えの用紙に改めて走順を記入したり交代する競技者名を追記したりして、招集完了時刻の1時間前（14時10分）までに、競技者係（招集所）に提出する。
- (6) 80mHは、ハードルの高さ70cm、ハードル間7m、ハードルの台数9台、スタートから第1ハードルまで13m、最終ハードルからゴールまで11mとする。
- (7) 走幅跳・ジャベリックボール投は、一人3回の試技とし、トップ8は行わない。
- (8) 走高跳の跳躍方法は、はさみ跳びとし、マットへは足裏からの着地を原則とする。背、腰等から落下した場合は無効試技とする。走高跳の最初の試技の高さは、女子は105cm、男子は110cm（コンバインドは100cm）とし、以降5cmずつバーを上げ、女子は125cm、男子は130cmになったら3cm刻みにバーを上げる。同一の高さでなくとも3回続けて失敗した場合は試技終了となる。
- (9) ジャベリックボール投は、大会事務局が準備したもの（ジャベボール）を使用し、助走距離は15m以内とする（やり投げのピットを使用する）。投げ方は、ボール本体を持ち、オーバーハンドで投げることとする。羽だけを持って投げることは禁止する。
- (10) コンバインドの走幅跳・ジャベリックボール投の試技は2回、走高跳は2回続けて失敗した場合は試技終了となる。

## 2 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

公益財団法人山形県スポーツ協会制定の「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」及び本協会の方針により、【無観客開催】とし、競技者及び大会関係役員以外の入場については以下のとおり制限します。

- (1) 参加選手1名・1チームにつき、帯同者1名を決め、当日の受付→ウォーミングアップ→招集場所への集合まで、選手と同じ行動をとること。その後、競技後に選手と合流すること。
- (2) 入場は、エントリーした選手と帯同者のみとする。
- (3) 選手と帯同者が観覧できる場所は、スタンド（メイン・サイド・バックのスタンド）となるが、当日の主催者の指示に従うこと。また、サブグラウンド（ウォーミングアップ場）に入場できるのも、選手と帯同者のみとなり、指示に従うこと。

- (4) マスク着用などの遵守事項は、別紙「新型コロナ感染拡大防止に関して参加者をお願いする事項」を確認すること。

### 3 ウォーミングアップ・練習について

- (1) 練習は、各個人及び帯同者の責任のもと、ウォームアップ場係の指示により、練習会場使用日程に示す時間帯で行い、事故防止には注意を払うこと。なお、練習中に発生した疾病・傷害等については、応急処置は主催者において行うが、以後の責任は負わない。
- (2) 雨天走路は原則として開放しない（感染症対策のため）。

### 4 招集について

- (1) 招集所は、バックスタンドの北側の裏（掲揚台の北側）に設置する。
- (2) 招集開始時刻・招集完了時刻は、プログラム記載の競技日程のとおりとする。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、原則、当該競技種目を欠場したものとする。

	種別	招集開始	招集完了
トラック競技	予選（決勝/準決勝を含む）	35分前	20分前
	決勝	25分前	15分前
フィールド競技	決勝	45分前	30分前

### 5 アスリートビブス（ビブス）について

- (1) アスリートビブス（ビブス）は主催者が2枚配布する。競技者は、競技中、胸と背にはっきり見えるように2枚のアスリートビブス（ビブス）をつけなければならない。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバー標識（招集所で配布）をショーツまたは下半身の右後方に付ける。4×100mリレーでは、最終走者は配布された腰ナンバー標識をつける。

### 6 競技場内への入退場について

- (1) 競技場内への入退場はHゲート（フィニッシュ地点付近）・バックスタンドの北側の招集所入口とする。
- (2) 競技終了後は、競技役員（Hゲート）の指示に従い、Hゲート（フィニッシュ地点付近）・バックスタンドの北側の招集所入口から退場する。なお、衣類搬送は行わないため、スタート地点に戻る際は、100m・80m Hは雨天走路を通ること。また、1000mの種目は第1曲走路部分をスタンド壁面に沿って戻ること。

### 7 抗議について

競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目の結果の正式発表後30分以内に行わなければならない。ただし、いかなる抗議も、競技者自身または監督から審判長に対して口頭で行うこととする。

### 8 表彰について

各種目8位までの入賞者には賞状、3位までの入賞者にはメダルを授与する。ただし、リレー種目については、メダルは6名全員に、賞状はチーム7枚とする。

※ 表彰式は行わない。そのため、入賞者・チームの帯同者は、受付場所で賞状等を受け取ること。

### 9 個人情報の取り扱いについて

- (1) 主催者は、個人情報保護に関する法律および関連法令等を遵守して個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、ホームページ、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (2) 本大会主催者及び日本陸上競技連盟いずれかが認めた報道機関や大会の協賛・後援の各団体が撮影した大会の映像・動画・画像・記事・個人情報等を、主催者および主催者が認めた第三者が大会運営および宣伝等の目的で、大会ポスター・プログラム・パンフレット・大会報告等への使用、およびテレビ・ラジオ・新聞・雑誌・SNS・ホームページ等の媒体に掲載することがある。

## 10 上位大会の出場について

### (1) 「全国小学生陸上競技交流大会」(神奈川県横浜市) について

- ① 5年100m・6年100m・コンバインドA・コンバインドBにおいて、本大会で男女各1位になった選手は、全国大会に出場することができる(今年度は男女混合リレーが中止)。全国大会への申込み手続きは、順位確定後に、受付場所(会議室1・2)にて個別に行う。
- ② 同一人が2種目を兼ねて出場することはできない(コンバインドA・Bも1種目とする)。
- ③ 1位になった選手が全国大会の出場を辞退した場合は、2位以下(順次繰り上げ)の選手が出場することができる。

### (2) 「東日本都道府県小学生陸上競技交流大会」(北海道函館市) について【開催中止】

※ 本大会の第1・2位に出場権を授与する予定の「第10回 東日本都道府県小学生陸上競技交流大会」(北海道函館市)は、選手・引率者・観客等の安全と安心を確保することが難しいと主催者が判断し、大会を中止することになりました。

## 11 その他

- (1) 応援幕・のぼりはサイド及びバックスタンド最上部に張ってください。なお、メインスタンドにはテントやタープは、一切張ることができませんので、ご注意ください。
- (2) 走幅跳での本部席上のスタンド(コーンで示してあります)からの助言は、運営の妨げになりますのでご遠慮ください。また、選手への助言は運営の妨げにならないようにご配慮をお願いいたします。ただし、選手に触れたり、審判長の許可なく物を渡したりする行為は禁止します。

## 競技会運営留意事項

### ○ 事故防止及び競技者はじめ関係者の安全を期すためのテント設営の際の取扱い基準について

- (1) テント設営にあたっては、地面とテントの支柱をロープと杭等により固定すること又は支柱にバランス良くテントウエイト(オモシ:土砂などを入れた袋等(10~30kg程度)を支柱にくくりつけるなど)を取付けること。
- (2) 風速3m/秒以上になった時又は3m/秒以下でも軽い突風、つむじ風などが発生した時は、アナウンスによる注意及び指示に従って安全対策の実施状況を点検し、上記の基準(1)を徹底することまた、危険と思われる突風、つむじ風などが発生した時は、テントをたたみ飛ばされないようにすること。
- (3) 倒壊及び人身事故があった場合は直ちに状況を確認のうえ大会総務に口頭で報告するとともに、ケガ人等の程度を見て必要に応じ救急車を要請すること。

### ○ 災害・事故発生に対する措置について

- (1) 怪我の対応について
  - ・ 救護役員(医師)による応急手当を行う。
  - ・ 山形陸上競技協会派遣医師による手当てを行う。
  - ・ 近隣病院へ搬送する。この場合は、引率者または保護者対応とする。
- (2) 災害への対応
  - ・ 利用施設の災害対応マニュアルにしたがい避難・対応する。
  - ・ スタジアム職員、競技役員の指示に従い避難する。
  - ・ スタジアムは基本的に耐震設計されているので安全である。揺れが収まるまで上や近くの備品が倒れてくることを警戒しながら安全なところにとどまる。
  - ・ 競技続行の判断は、審判長、総務で協議の上行い、放送により通知する。